

田中理事長、タンザニアとケニアを訪問

01

田中明彦JICA理事長は5月27日から6月3日まで、タンザニアとケニアを訪問しました。

タンザニアでは、最大の都市ダルエスサラームでJICAの支援現場の視察や専門家との意見交換を行った後、北部のアルーシヤで開催されたアフリカ開発銀行の年次総会に出席。30日にはサイドイベント「貿易および地域統合のための援助」にパネリストとして登壇し、「域内貿易統合の障害の除去」と題して講演。田中理事長は、「急速な発展を続けるアフリカが経済成長を加速させるためには、アジアや中南米に比べて3〜5倍のコストがかかっている域内貿易の効率化が必要」と指摘した上で、「国境での税関や出入国管理手続きを迅速化するワンストップボーダーポスの整備など、JICAの取り組みを紹介しました。」

田中理事長は、翌31日の本会合に出席した後、ジャカヤ・ムリシヨ・キクウエテ大統領と会談。大統領は、来年6月に横浜で開催される第5回アフリカ開発会議(TICAD V)について「タンザニア、そしてアフリカにとって大変重要なイニシアチブとなる」と期待を示すとともに、「コメの増産に向けた灌漑施設の整備など農業分野の包括的な支援を要請しました。田中理事長は、JICAが1980年代から支援するキリマンジャロ農業開発センターなどを視察したことに触れ、農業分野での継続的な支援を行うことを表明しました。



アフリカ開発銀行の年次総会では、域内貿易の効率化や経済変革などについて議論が交わされた



ケニアのキバキ大統領と会談し、隣国ソマリアの状況についても意見交換

その後、田中理事長は6月1日からケニアを訪問。円借款によって建設が進んでいるオルカリア地熱発電所や、小規模園芸農民の組織を強化・振興する技術協力プロジェクトなど支援の現場を視察したほか、同国で需要が高まっているインフラ整備のための借款契約とナイロビ市内のウゴンゲ道路拡幅のための贈与契約を結びました。こうしたインフラ開発は、「流通の促進や都市交通の渋滞緩和などを実現するとともに経済的波及効果も高い」(ギエタ財務大臣)と、同国から高い期待が集まっています。ムワイ・キバキ大統領も、道路開発事業について「物流ルートの確保ができるので、ケニアだけではなく東アフリカ全体に貢献する」との認識を示しました。

アフリカ訪問を終えた田中理事長は、「アフリカ諸国の現状について理解を深めることができた」とした上で、「各国が抱える課題は多様なため、柔軟な対応が必要。国境をまたぐ紛争問題の解決や域内経済の活性化の観点からも、地域的な視点が求められている」と総括しました。

沖縄エコアイランド・シンポジウム2012開催

02

5月25、26日に沖縄県で開催された「第6回太平洋・島サミット」。その直前の23日、JICAは同県と共に、宜野湾市で「沖縄エコアイランド・シンポジウム2012」島と命を守る新たな挑戦」を開催しました。当日は、国際機関をはじめ、ミクロネシアやフィジー、パラオなど太平洋諸国の政府や各国の民間企業、日本の自治体、日本企業、NGO、大学関係者ら200人以上が出席しました。

「エコアイランド」とは、環境への負荷が少ない農業を営んだり、廃棄物を適正に管理したり、低炭素化などの気候変動対策に島全体で取り組むことを掲げたコンセプト。シンポジウムでは、これを推進している宮古島市の梶原健次課長補佐や一般財団法人南西地域産業活性化センターの緑川義行部長が、沖縄の自治体や民間企業の取り組みを紹介。さらに、大洋州11カ国を対象にしたJICAの「大洋州地域廃棄物管理改善支援プロジェクト」を率いる天野史郎チーフアドバイザーも、同プロジェクトについて発表しました。その後、参加者が水や廃棄物分野における課題と対策について意見交換を行う場も設けられ、民間と行政の連携を強化する重要性が確認されるとともに沖縄と島しょ国が相互に学ぶ機会となりました。



太平洋諸国での水や廃棄物にかかわる課題への取り組みが発表された

マレーシア日本国際工科院の開講式開催

03

6月1日、マレーシア日本国際工科院(MJIT)の開校式が首都クアラルンプールで行われました。

MJITは、学部と大学院を併せ持ち、日本の工学教育の特長でもある研究室活動を軸とした「講座制」を通じ、研究開発能力を持つ人材を育成することを目指しています。設立にあたり、JICAは円借款「マレーシア日本国際工科院整備事業」で研究活動に必要な機材や教育カリキュラムの整備を支援。また、大学運営や産学連携を支援するため、MJIT副院長として木下智見JICA専門家(九州大学名誉教授)などを派遣しています。さらに、日本国内の24大学とも連携しており、日本人教員を派遣しています。

開校式には、ナジブ・ラザク・マレーシア首相のほか、鳩山由紀夫総理特使、加藤重治文部科学省国際統括官、荒川博人JICA理事らが出席。ナジブ首相は、「MJITは日本とマレーシアのきずなの証し。両国の産業界の強い連携を生かすためにも、専門性と起業家精神を備えたエンジニアがここで育つことを期待しています」とスピーチ。将来的には東南アジア諸国連合(ASEAN)や中東諸国からも学生を受け入れ、日本型工学教育の国際拠点となることを目指しています。



開校式に出席した荒川理事、中村滋駐マレーシア特命全権大使、鳩山総理特使、ナジブ首相(後列左から)